



コッパくんの

# お宅訪問

『自然と、家族と、  
ひとつながりの家』 ~茅野市、W様邸~

~W様ご家族~  
ご夫婦・ご長男  
竣工 H24年5月  
延床90.67㎡(27.43坪)



エントランスは別荘地らしいテイスト。個性の中にも、周囲との調和を重んじるW様の心遣いが感じ取れる。



とっても景色の良いお宅ですね！

ご主人  
縁あって譲り受けたこの土地は全部で460坪の広さがあるのですが、中でもいちばん景色が良いのが、今、リビングがあるこの場所なんです。打合せの始まりにこの土地でスタッフの方とお話をしたときに「甲斐駒ヶ岳を正面に眺めるこの位置がいちばんいい場所なんです」と伝えたところ、この場所にリビングを設けるという条件から設計を始めてくれました。景色を楽しむために窓も幅を広くとってくれ、まさに我が家の絶景ポイントです。

他にはどんな要望がありましたか？

奥様  
この地域は別荘地なんです。南アルプスと車山高原が望め、自然環境も抜群。そんな土地に新築するので、「大自然の風景や穏やかな別荘地の景観を邪魔しない、周囲と調和する家にしたい」と希望しました。建物の高さを極力抑え、凸凹のないすっきりしたフォルムに、外壁は一部板張りにしたことで、この風景に受け入れてもらえる佇まいになったと思います。

ご主人  
あとはやはり予算のこと。予算に限りがあり、床面積も最小限になることは分かっていたのですが、果たしてそれで良い家になるのかという不安は少なからずありました。でも、室内外のつながり・広がり大切に考えたプランニングをしてもらい、「窮屈」という形容がまるで当てはまらない家になりました。とても開放的で気持ちよく暮らしています。

この土間サロンも個性的ですね！

奥様  
限られた坪数を最大限有効に使うため、スタッフの方と一緒にプランを練っていったその終盤で、「いっそキッチンまで土間にしたら」というアイデアが生まれました。結果的に、これが大正解。汚れを気にせず料理がはかどり、勝手口を通して畑との行き来やゴミ出しも楽々。とっても機能的な空間です。さらに薪ストーブも土間に置いたので、薪を運び入れるにも気兼ねなくして良いし、料理に使うときにも使いやすく重宝しています。

ご主人  
この土間空間から何の仕切りもなくリビング・畳の間へとつながるのですが、いろんな機能を土間に集約させたことでファミリースペースは広さを存分に使い、ゆとりが生まれたように思います。



人を迎える玄関であり、炎にあたたまる場でもあり、機能的なキッチンでもある、W様邸の中核をなす土間サロン。



お住まい心地はいかがですか？

ご主人  
いつも“つながり”を感じていただける家です。室内の間仕切りがほとんどないので、家族が家じゅうどこで何をしても“いつも一緒”と感じられます。子どもが大きくなっても、気配が伝わる空間はお互いに安心感がありますね。もうひとつは、外とのつながり。人目が気にならない立地もあってカーテンはいつも全開なのですが、狙い通りのアルプスの山並みを望むのはもちろん、ときどきシカが敷地内を通過していくのを見ることが出来ます(笑)。まさに、自然の中に住まわらせていただいているのだと感じますね。

奥様  
この“つながり”のあるプランニングか否かで、暮らしの豊かさはまったく異なっていたと思います。家の外まで暮らしの一部であるということが、当たり前前に設計に組み込まれているというか。これ以上ない『広がり間取り』ですね。



←プランナーの、暮らしのゾーニングスケッチ。

